

生態系保全活動を通して 地域コミュニケーションの向上へ

こしろのうみずかんきょうほぜんかい
栃木県：小代農地水環境保全会

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

農業と自然環境の共生を図ること

【経緯】

ほ場整備事業に伴う用排水路の分離により、水田を生息場所としているメダカやドジョウ等の生きものが減少してしまったため、環境保全活動や環境創造型農業を推進するため、小代農地水環境保全会を結成した。



子供たちとの保全活動

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】水路魚道、水田魚道、環境配慮護岸工、深み水路、生態系保全地

【活用した事業等】栃木県営経営体育成基盤整備事業

【保全対象生物】スナヤツメ、ホトケドジョウ、ギバチ等

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. ほ場整備事業による施設整備

①環境に配慮した水路の整備

- ・水路魚道（千鳥×型魚道）を設置
- ・水路の草刈り、泥上げの実施
- ・水田魚道（コルゲート管）を設置
- ・生息場や産卵場を確保するため水路左岸を石積み護岸へ
- ・水路底に現況表土を戻し、水深や幅を変化

2. 水路の生きもの調査

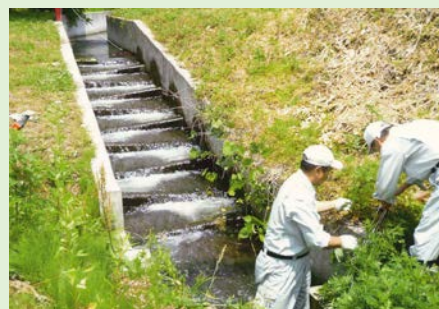
①生きもの調査を開催

- ・夏休みを利用して、地元小学生及び保護者、近隣の高校生が参加・協力

3. その他

①役員によるその他の活動内容

- ・生態系保全地の維持管理
- ・シモツケコウホネ自生地の維持管理



水路魚道の様子



水路での活動風景

○継続した活動でこんな効果が！！



生きもの調査の様子

■地域住民の関心度向上

- ・活動参加人数が年々増えていることから、環境保全活動への地域住民の関心が高まっている様子が伺える。（特に非農家住民の参加が増加）

■地域住民とのコミュニケーションの向上

- ・生きもの調査の時など、生態系保全地内の田んぼで収穫された米を使い、子供や参加者と昼食会を開催し交流の輪が広まった。（地域の婦人会の協力）

○課題・苦勞した点

■地域住民への活動参加の働きかけ

- ・非農家住民からの参加協力を得ることが困難だった。

■生態系保全活動の経験不足

- ・生きものの専門的な知識や保全活動の経験が不足していた。

○工夫した点

■親子参加型活動

- ・田植えなど、親子で楽しめる活動内容を実施。また、地域住民を対象に説明会の開催や自治会経由で回覧などを利用して活動内容を継続的に紹介。

■外部から経験者を講師として招待

- ・保全活動の経験者を県農業振興事務所に紹介してもらい、知識や経験不足を解決している。

○活動の特徴！！

■非農家住民との保全施設の維持管理活動に発展

- ・農家だけでなく、非農家住民も、生きもの調査の参加をきっかけに施設の維持管理活動への参加に発展してきている。



○団体の概要は？

- ・平成24年度に設立され、活動エリアは、栃木県日光市小代地区（旧落合村）である。
- ・任意団体であり、延べ人数は約300名。
- ・年間運営費は補助金が100%となっている。
- ・年間活動日数は、約50日である。

